岐阜大学
キャリア
センター
ニュース

Career
Center
News

No.3

2012.7

URL http://www1.gifu-u.ac.jp/~career/

巻頭言

キャリアセンターへの期待

福士 秀人
教養教育推進センター長

教養教育推進センター長

知的基盤社会をささえる人材育成が高等教育の役割のひとつであることはいうまでもありません。この人材育成は「キャリア育成」と言い換えることができると思います。岐阜大学キャリアセンターに期待する「キャリア育成」は単なる就職支援だけではなく，生涯にわたり自立的な市民として社会で活躍するために必要な能力の育成としての支援です。この時，市民として活躍するのは，職業人としての活躍だけではありません。職業をもたなくても，社会の一員として大きな役割を担う人たちもたくさんいます。いわゆるワークライフバランスが大切になるのではないでしょうか。このような人生そのものを考える基盤となるのが大学におけるキャリア形成であると考えています。

キャリア育成については，教養教育推進センターとしてこれまでの２年間，キャリア形成に関わる授業を岐阜大学生に提供してきました。同窓生の方々の協力のもとに先輩たちの経験を伝えてもらう授業も含まれています。学生一人一人の個性を生かしたキャリア形成ができるようになるための授業は文部科学省からキャリア形成に関わる教育の重要性が指摘される以前から開講し，多くの学生たちの支持を得てきています。今後は，これらキャリア形成に関わる授業はキャリアセンターの企画・立案のもとに行われることになっており，非常に期待しております。

キャリア形成を考えるとき，これまで教養教育推進センターが提供してきたような授業としてのキャリア形成だけですむものではありません。授業以外の時間におけるキャリア形成は授業以上に重要なのではないでしょうか。大学生活も含め，社会は人と人のふれあいで成り立っています。互いに助け合い，協力しあうことで，個人個人の力も伸びていくのではないでしょうか。その一つとして，学生による学生のための支援活動があると思います。岐阜大学のキャンパスを舞台として，学生が主体的に活動できるようにキャリアセンターが大きな役割を担うことも期待の一つです。

これからのキャリアセンターの活動の発展と大いなる成果を願っております。

● 先輩社会人「社会に出て，学生時代を振り返って」●

内定への近道「自己分析」

芦川由香さん

2004年，岐阜大学旧農学部卒業。大学４年間は本当に不真面目でさぼってばかりでした。バイトと麻雀とスロットばかりだったけど，単位ギリギリでなんとか卒業。

それもこれも友人（と代返）のおかげです。みんなありがとう。

学業はかなり問題児だったと思います。先生にいつも怒られていたし，遅刻常習犯ですし。でもこんな私が，学科で１番最初に就職が決まりました。

時代は就職氷河期の終わりがけ。理系なのに農学部からの就職先となる企業や分野は少なく大変，と言われていましたが，応募した企業は全て合格。「不合格」という文字を１度も見ることなく，私の就職活動は２ヶ月で終了しました。

（株式会社中電ＣＴＩに就職。地元のUser系１次請けSIer）

周りからは「要領がいい」「運がいい」と言われましたが，絶対に違う。不真面目だったし，資格も特技もなかったですが，誰にも負けないことが１つ。「自己分析」。

誰よりも時間をかけ，誰よりも自分を真剣に見つめ，誰よりも自分のことを研究しました。

企業研究よりも自己分析に時間をかけました。当時は誰かに「自己分析をしろ」と言われた訳ではなかったですが，農学系からIT系への異業界への挑戦になったため，毎日毎日，自分のことを考えました。「自分はなぜIT業界に行きたいのか」「今までやってきたことで業界との接点はなにか」「情報系のライバルよりも有利になる特技はないか」「就職するまでの１年で何ができるか。」…。そんなことを，ひたすら考えていました。

後に（株）リクルートエージェントという転職者支援会社に就職し，キャリアコンサルタントという職に就きますが，その時，自分がなぜあっさり就職できたのかを理解しました。

面接官はプロです。沢山の人間を見てきている彼らに対して満足のいく答えを返すには，業界研究や企業研究だけでは足りません。だって，どんなに調べたり聞いたりしても，それは所詮，他人の情報。「志望理由」「３年後になりたい自分」「特技」「長所や短所」など必ずと言っていいほど聞かれる質問に対する回答は，自己分析ができているか・できていないかによって，ずいぶん具体性に差がでてしまい，結果，合否を左右します。自分だけが持っている自分の情報をしっかりと分析し，活用して，就職活動に臨むことが内定への近道だということを知っておいてほしいと思います。(「先輩社会人」登録者・芦川由香)

● キャリア形成科目を担当して ●

生きる力をはぐくむ

浅井彰子さん
（中日新聞社提供）

愛知県半田市出身の児童文学者，新美南吉の絵本に『でんでんむしのかなしみ』という作品があります。これは，美智子皇后が1998年にインドのニューデリーで開かれた児童図書評議会の世界大会で，ビデオをとおして講演されたおりに朗読されたことでもよく知られています。

ある日，１匹のでんでんむしは気がつきました。わたしの殻の中には悲しみがいっぱいつまっている，と。そこで，お友だちのでんでんむしに「もう生きていられません」と訴えます。でも，お友だちは，自分の背中にも悲しみはいっぱいだと言います。じゅんじゅんにお友だちに尋ねてみると，誰もが同じことを言いました。このでんでんむしは「かなしみはだれでももっているのだ。わたしばかりではないのだ。わたしはわたしのかなしみをこらえていかなきゃならない」と，嘆くのをやめました。

昨年からキャリア支援科目をオムニバス形式で担当しています。アナウンスと心理学の両面から，自分のこと，自身のコミュニケーションについての気づきを得ていただきたいと願い，『でんでんむしのかなしみ』などたくさんの絵本を使って授業をさせていただきました。

今，社会は，学力が高いだけではなく，たくましく生きる力をもった若者を求めています。共感すること，他者の「かなしみ」をみつめ，寄り添うこと，人とつながり合うこと。そんな豊かな人間性が，その人自身だけでなく，周りの人たちをも幸せにすると言えるでしょう。昨今の学生さんたちにとって，内定が最終目標になってしまっているとのレポートを聞いたことがあります。就職ではなく「就社」だと。

生きる力とは，自身の生涯をマネージメントする能力でもあります。大学生活をとおして，多くの大人たちの生き方にふれ，ご自分のライフデザインを大きく深く描いてほしいと願っています。

（岐阜大学非常勤講師・浅井彰子）

● 学生のボランティア活動 ●

福祉施設のボランティアに参加して

川　口　直　秀
工学部社会基盤工学科２年

活動を終えて

2012年３月２～３日にJR岐阜駅アクティブGにて開催された「ふれあい福祉マーケット2012」にボランティアスタッフとして参加し，岐阜の障がい者支援施設で作られた商品の販売をお手伝いしてきました。中学卒業以降，障がいのある方との交流がまったく無くなっていたのですが，学生ボラネットのメールマガジンで今回のボランティア情報を知り，是非行ってみたいと思ったことが参加のきっかけでした。

東北復興支援の商品も売らせていただいたのですが，買っていかれるお客さんに「その収益で津波で流されてしまった福祉施設の再建をする」ということをお伝えすると，熱心に商品を見て追加で購入くださる方もいらっしゃり，接客を通じて間接的に福祉支援が行われるという，目には見えない人の繋がりを感じました。また，商品を作った方の「おいしく食べてもらいたい」という思いと，買っていかれるお客さんの「おいしく食べることで，障がい者を応援したい」という思いを繋げる架け橋に自分がなることで，人に伝えることの大切さを知りました。

ボランティアをしていて衝撃的だったことが２つあります。１つ目は，売られている商品（菓子類）が，もの凄く上質でおいしかったということです。お昼の休み時間に自身で購入して食べてみたのですが，あまりのおいしさに友人や家族へのお土産分まで追加で購入してしまいました。正直なところ，福祉施設で作られているお菓子を食べて，これ程までの感動を得られるとは予期しておりませんでした。

もう１つ衝撃的だったことは，そんな美味しいお菓子を作っている障がい者の方々が，月にたったの１万円しか給与を得られていないという，障がい者雇用問題の実態でした。施設の方が少しでも雇用環境を改善しようと努力されている中でのこの状況で，他の地域には，毎日働いている障がい者が月に五千円しか給与を得られていない所もあるとの事でした。「日本の障がい者雇用はいったいどうなっているのだろう？」「仕事の量に見合った所得を得られないのはどうしてだろう？」疑問と同時に，この問題に対する関心がわきました。機会があればまた，この福祉施設のボランティアに参加し，職員の方が障がいのある方と直接交流する事で，考えを深めていこうと思います。

● キャリア形成の自主的活動 ●

ＥＳＤクオリアの活動について

安　藤　彰　太
ESDクオリア代表

こんにちは。「ESDクオリア」です。

私たちはNPO法人や岐阜市役所の方々と共に，主に環境教育のボランティア活動を行っています。

具体的には，小中学生の環境学習イベントのスタッフや，高校生・大学生の交流の場「学生環境会議」の主催，岐阜市金華山の麓にある「達目洞」の環境保全活動などです。これらの活動が評価され，昨年度，財団法人学生サポートセンターより「学生ボランティア団体支援事業」に採択頂きました。

答志島奈佐の浜海岸清掃

今年度は，発足２年目を迎える学校間交流サークル「未来塾2050」を中心に，他大学との交流・連携活動を実施しています。その中の一環として先日，６月９日に「答志島奈佐の浜海岸清掃」に参加してきました。伊勢湾の出口に位置する三重県鳥羽市の答志島は，海苔漁が盛んな場所として知られています。しかし，一方でその場所であるが故に，伊勢湾に流入する河川から多量のゴミが漂着しています。伊勢湾流域に住む私たちが，漂着ゴミやそこに見える地域の環境問題，流域の保全等について考えを見直す機会になると思い参加して参りました。

実際に現地に着くと写真で見たよりも漂着ゴミは少なく，一見してそれほど深刻な状況には見えませんでした。しかし，いざゴミ拾いを行なってみると「堆積ゴミ」が非常に多いことが分かりました。また，後で聞いた話ですが奈佐の浜の海岸清掃は地元の小中学生や島民の方が定期的に拾っているので，"一見してゴミの無いように"見えるということ，さらに伊勢湾は年間約１万ｔの漂着ゴミがあり，そのうちのほぼ半数が鳥羽市にある海岸に漂着していることも知りました。私たちESDクオリアでは，このような実践を通して，ESD（*Education for Sustainable Development*：持続可能な発展のための教育）について考えています。まだまだ走り出したばかりですが，今後も他大学との連携を深め，活動を行っていきたいです。

● キャリア形成の自主的活動 ●

第2回リアル熟議@岐大～充実した大学生活の過ごし方～

伊　藤　真　帆
岐大発！熟議推進委員会

私たちは「岐大発！熟議推進委員会」です。昨年の３月に発足し，今年活動２年目を迎えたばかりのまだまだ新しい団体です。熟議をはじめとする様々なイベントの開催を通じて，岐阜大学を活性化させることを目的に，現在７人のメンバーで活動しています。

熟議とは文部科学省が学校教育を変えるために進めている企画で，当事者が集まりあるテーマについて話し合います。昨年度は就職問題をテーマとし，岐阜大学で第1回目となるリアル熟議を開催しました。そして，本年度７月４日水曜日に第２回リアル熟議を開催いたします。大学１，２年生を対象に，充実した大学生活の過ごし方というテーマで，学生と社会人とが輪になって，大学生活の有意義な過ごし方について話し合います。今まで考えてこなかった過ごし方が見つかることで，視野を広げることができます。将来の方向性が定まらず，不安に感じている１，２年生の方には特に参加していただきたいと考えています。このイベントでのディスカッションを通してヒントを掴めることでしょう。

昨年の熟議の様子

熟議では他学部・他学年の学生とはもちろん，岐大のOB・OG先輩社会人との交流ができ，普段は聞くことができない話を聞くことができます。みなさんも熟議を通して充実した大学生活の過ごし方について一緒に考え，これからの大学生活を充実させてみませんか？

● 学部における就職・キャリア形成支援の取り組み ●

工学部のキャリア形成と就職状況

松　居　正　樹
平成22・23年度教務委員長

工学部では，学部体制と学科単位の両方で，学生のキャリアアップに取り組んでいる。以下について，平成23年度の実績を示す。企業見学会（県内企業７社，夏休み中に実施）には２年生35名が参加した。大変有意義であったというアンケート結果が得られている。企業説明会（中部エレクトロニクス振興会（19社，111名，12/14），東海６社（６社，260-270名，12/21），岐阜県経営者協会・大垣商工会議所共催（85社，251名，1/28），豊田市人材開発フォーラム企業（87社，219名，1/29）にも多くの学生が参加している。インターンシップについて，学部生は自由参加で13名が参加した。博士前期課程では選択で，74名（22%）の学生が参加した。８月中の２週間の実施が最も多い。学部・博士前期課程ともに，インターンシップ参加企業への就職例は多くない。また，毎年，各学科の就職担当者と岐阜県経営者協会メンバーとの連絡協議会を行い，工学部全体や各学科での教育内容の説明等の情報交換を行っている。学科単位では，OBの体験談，工場見学，助言教員制度を通したポ―トフォリオの活用等を継続して行っている。

学部学生は３年後学期頃から，博士前期学生はM1の秋頃から，工学部または学科就職担当からの公募の求人情報，またはインターネットからの自由応募情報を得ている。最近では，自由応募によるものが多い。

学部学生では，卒業生565名中就職希望者は238名で，内227名が就職した。進学者は312名（55%）であった。そのうち，他大学への進学者は14名であった。一方，他大学から本学博士前期課程への進学者は24名（一般６，社会人２，留学生16）で，関東や関西の大学に比べて，大学間の移動は少なかった。

企業見学会の様子

博士前期課程では，修了生358名のうち，就職希望者は329名で，323名が就職した。そのうち本社の所在地が愛知，岐阜の企業には64%の学生が就職した。入学者の91%が愛知，岐阜出身者であることから，自宅から通学できるところの岐阜大学に入学し，親元から遠くない会社に就職する図式が見えてくる。23名（6.4%）が進学した。そのうち，本学大学院には20名が進学した。

全学組織のイノベーション創出若手人材育成センターでは，全研究科と岐阜薬科大学の博士後期課程学生の学外研修とそれに続く就職指導を行っている。平成24年度で３期目である。スキルプログラムと学外研修プログラムを実施している。就職対象となるプログラム修了生12名全員が就職している。

●就職支援室からのお知らせ（７月の就職ガイダンス予定）●

☆７月４日（水）12：50～14：20　講堂
「理系学生の進路ガイダンス」
東海地域の企業人事に詳しい本学OBが説明します。「企業からみた岐大生と人事の本音」についても取り上げる予定ですので，文系の方もどうぞ。

☆７月11日（水）12：50～14：20　全学共通教育棟24教室
「日本企業で内定を勝ち取るためには！」外国人留学生のための就職ガイダンス
元留学生の立場から日本での就職活動のルールなどを分かりやすく説明します。現在就職活動中の４年生・M2の参加もOK。困っていることがあれば相談に応じます。

☆７月25日（水）12：50～14：20　講堂
「就職活動マナー講座」メール・電話，挨拶，服装，メーク
ぜひ知っておきたい就職活動のマナー全般について実技を交えて詳しく説明します。看護学科（医学部）の方もお越しください。きっと役に立ちます。

●学生サポーター（就活支援・相談）の募集●

キャリアセンターでは就職活動を始めている３年生や修士１年生を対象とし，その悩みや疑問に答える相談活動を行っています。そのなかで「学生サポーター（就活支援相談員）」の活動は，既に就職内定を得た４年生及び修士２年生を対象として募集し，自らの経験を踏まえて同じ学生の立場で就活中の学生の相談に応じ，不安を和らげ意欲的に活動ができるように励ますことを目的としています。

なお応募用紙はキャリアセンターに置いてあります。

キャリアセンターニュース編集委員

委員長　佐々木実（キャリアセンター長）　　委員　今井　健（キャリアセンター特任教授）
委　員　酒光伸嘉（課長補佐・就職支援室長）　委員　籔田　薫（キャリアセンター参事補）

●岐阜大学キャリアセンター●
〒501-1193 岐阜市柳戸1－1
キャリアセンター　TEL 058-293-3393　career@gifu-u.ac.jp
就職支援室　TEL 058-293-2147・3362　job@gifu-u.ac.jp